

かいじあむ お庭の^{かんさつ}観察カード

No. 005 (季節：秋)

テーマ

“とんだ”植物たち



動物は基本的に自力で移動できるので卵まで動く必要はありませんが、植物は根を持ち、成長したら移動できなくなるので、卵(=たね)のときに移動し、分布域を広げなければなりません。

移動の仕方にはいろいろありますが、風の力を借りてたねを移動させてもらう植物もたくさんあります。そして、風の力を借りる植物にも、大きく分けて、綿毛で飛ぶタイプと翼で飛ぶタイプの2種類があります。

綿毛で飛ぶタイプ：上の3つの写真がそうです。左からガマ、セイヨウタンポポ、キツネアザミの綿毛です。セイヨウタンポポとキツネアザミは同じキク科ですが、綿毛の姿が微妙に違っています(下記)。

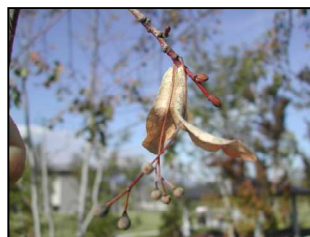
翼で飛ぶタイプ：下の写真がそうです。たねに翼が付いていてフワフワ落ちてくるクマシデ。その翼がプロペラのようにクルクルまわりながら落ちてくるカエデ類。上手く回ると、まるでタケコプターのように見えるシナノキ。なんの変哲もないたねですが、小枝ごと落ちてくることによって、小枝の葉が翼の役目を果たすケヤキなどがあります。



クマシデの実。皮のようなのが1枚1枚はがれ落ちる。



オオサカツキモミジの実。プロペラのようにクルクルよく回る。



葉の途中から柄が出て実が付いているという感じのシナノキ。



小枝ごと落ちれば、たねに翼が付いているのと同じ効果。ケヤキ

タンポポ類の綿毛：たねから柄が出て、そこから放射状に綿毛が出る。アザミ類の綿毛：タンポポ類のように柄はなく、たねからいきなり放射状に綿毛が出る。綿毛の1本1本に枝が出ているので、鳥の羽毛のよう。